

令和3年度秋田県総合政策審議会第3回未来を拓く人づくり部会 会議録

- 1 日 時 令和3年9月6日（月）13:00～14:00
- 2 場 所 WEB会議（事務局：県庁第二庁舎 4階 高機能会議室）
- 3 出席者
 - 委員 佐藤 有加（立志塾RISE講師）
豊田 哲也（国際教養大学アジア地域研究連携機構機構長・教授）
林 信太郎（秋田大学大学院教育学研究科教授）
野崎 一（秋田県PTA連合会事務局長）
黒川 匡子（株式会社ゼロニウム取締役）
蛭田 一美（聖園学園短期大学准教授）
前原 和明（秋田大学教育文化学部准教授）
 - 県 石川 政昭（秋田県教育庁 教育次長） ほか関係課長等

1 開 会

2 議 事

◎ 林部会長

議事に入る前に一言申し添える。審議内容は、議事録としてホームページに掲載される。その際、委員名は特に隠す必要はないと思うので、公開で行いたいので、よろしく願います。

それでは、議事に入る。最初に、議事「(1) これまでの未来を拓く人づくり部会における主な意見等について」事務局から説明をお願いします。

◆ 事務局

部会資料－1を御覧いただきたい。

第1回・第2回部会の意見を、目指す姿・方向性ごとにまとめたので、検討の参考としていただきたい。

この後、議事2で説明する提言（素案）については、提言1が目指す姿1、提言2が目指す姿2、とそれぞれ対応しているが、本資料P4になるが、目指す姿3・グローバル人材の育成については、部会での意見が主に海外とのオンライン交流であったことから、提言2のICT教育に整理統合させていただいた。

また、P 6の目指す姿5・高等教育関係については、部会でもあまり意見が出なかったため、提言は作成していない。

したがって、目指す姿は6本であるが、提言は4本になっている。

最後に、P 8をお開きいただきたい。他の専門部会において出された当部会に関する意見を記載している。

★マークのついた意見については、先月開催された企画部会で意見交換が行われたものであり、□マークのついた意見は、参考として情報提供のあったものである。

6つの意見のうち、上5つについては、当部会の議論と方向性を同じくするものであるため、この後説明する提言に、レベル感はそれぞれ異なるが、対応した記載を行うよう工夫をしている。

一番下については、「高齢者とのふれあい活動について、学校入学時に加点される仕組み等を設けてはどうか」との意見であるが、こちらについては現時点で提言に対応した記載は無い。

説明は、以上である。

◎ 林部会長

今の説明に質問や御意見は無いか。

私から1点修正をお願いしたい。P 7の下から10行目、「小坂中学校」とあるのは「花輪中学校」であるので、修正をお願いします。

◎ 林部会長

他に無いか。後ほど御発言いただいても構わないので、本日のメイン議題である議事「(2) 提言書(素案)について」事務局から説明をお願いします。

◆ 事務局

部会資料-2を御覧いただきたい。

第1回・第2回部会で頂戴した御意見を踏まえ、提言としてまとめたものである。

はじめに、提言1「ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成について」であるが、目指す姿1に対応したものである。タイトルについては、部会の中で「ふるさと教育を更に推進すべき」といった御意見があったことから、「ふるさとを愛する心」という文言を採用している。

「背景」には、1点目として、ふるさと教育・キャリア教育の推進、2点目として、離職防止・職場定着の支援、3点目として課題解決や価値創造に向けた資質・能力の育成、4点目として高等教育機関や地域産業との連携、を記載している。

次に「提言」であるが、「(1) キャリア教育の充実について」では、①職場見学、職場

体験、インターンシップの更なる充実、②職業や大学等で学ぶ内容について理解を深める機会の充実、③関係機関との連携等によるきめ細かな就職支援と職場定着の推進、④企業との連携による障害のある生徒に対する職業教育実施のための教育課程の改善の4本を記載している。

P2をお開きいただきたい。「(2) 社会の変化と要請に応える専門教育の充実について」では、①社会で活躍するための基礎的能力としての情報活用能力の涵養、②高等教育機関・産業界と連携した教育活動の展開、の2本を記載している。

P3をお開きいただきたい。提言2「確かな学力の育成について」であるが、目指す姿2に対応したものである。

「背景」には、1点目として、ICTを活用した学校教育、2点目として、特別な支援を必要とする児童生徒の増加、3点目として、就学前施設における助言体制や研修機会の提供、3点目として、家庭や地域の教育力の低下、を記載している。

次に「提言」であるが、「(1) ICTを活用した質の高い学びの充実について」では、①ICTを活用した授業改善、②対面指導と遠隔・オンライン教育とのハイブリッド化による授業の充実、③ICTの活用に向けた体制構築、④不登校等の児童生徒に対する学習機会の提供、の4本を記載している。

P4をお開きいただきたい。「(2) 特別支援教育の充実について」では、①関係機関との連携による切れ目のない支援、②特別支援学校のセンター的機能の充実、③教職員の専門性の向上、④ICTの活用による学びの推進、の4本を記載している。

P5をお開きいただきたい。「(3) 就学前教育・保育の充実について」では、①小学校教育との円滑な接続の推進、②就学前教育・保育を担い人材の資質向上、の2本を記載している。

P6をお開きいただきたい。「(4) 学校・家庭・地域の連携・協働体制の構築について」では、①家庭教育支援体制の強化、②コミュニティ・スクールの導入促進・運営の充実、の2本を記載している。

次に、提言3「豊かな心と健やかな体の育成について」であるが、目指す姿4に対応したものである。

「背景」には、1点目として、多様性を認め合い、人権を尊重しあえる社会づくり、2点目として、いじめの認知件数の増加、3点目として、不登校児童生徒数の増加、4点目として、子どもの運動習慣の二極化傾向、5点目として、運動部活動の運営体制の維持が困難になりつつあること、P7に移って、6点目として、肥満傾向児の出現率が全国を上回っていることなどの生活習慣の課題、を記載している。

次に「提言」であるが、(1)「規範意識や自他を尊重する心を育む教育の推進について」では、①多様性を尊重する人権教育の充実、②児童生徒による主体的ないじめ防止

等の取組の推進、③教育相談体制の充実、の3本を記載している。

「(2) 学校における体育活動の充実と健康教育の推進について」では、①体育的な活動の促進と指導體制の充実、②持続可能な運動部活動の運営体制の整備、③関係機関との連携による健康教育の充実、の3本を記載している。

P8をお開きいただきたい。提言4「生涯にわたり学び続ける環境の構築について」であるが、目指す姿6に対応したものである。

「背景」には、1点目として、障害のある方の学びに関する課題、2点目として、ICTの進展により、誰もがいつでもどこでも学ぶことが可能となったこと、3点目として、ユネスコ無形文化遺産や世界文化遺産の登録に関すること、4点目として、本県の食文化の保存・継承に関する課題、を記載している。

次に「提言」であるが、「(1) 生涯学習の推進について」では、①障害者の生涯学習の推進、②生涯学習のデジタル化の推進、の2本を記載している。

P9をお開きいただきたい。「(2) 文化遺産の保存・活用について」では、①ふるさと教育における文化遺産の活用、②ICTを活用した文化財の情報発信、③郷土食の保存・継承・活用、の3本を記載している。

提言書の素案の内容説明は以上であるが、この後、委員の皆様から追加、修正、あるいは削除が必要な事項等を御検討いただき、来週末をめどに、完成させていく流れになる。

説明は、以上である。

◎ 林部会長

ただいま説明を受けたが、まずは全体について質問を受けた上で、提言1から順に検討していく。

全体を通じて何か質問はあるか。

◎ 林部会長

無いようなので、具体的な提言の検討に入っていく。まずは、提言1について御意見のある方は、御発言をお願いします。

◎ 林部会長

私から1点。まずは、提言のタイトルに「ふるさとを愛する心」と入れていただき、感謝する。他の部会に説明がしやすくなった。その上で、提言の背景の1ポツ目の4行目、「キャリア教育」のところを「ふるさと教育とリンクしたキャリア教育」などの表現にしていただけると、今後もふるさと教育を進めていくといった方向性が見せられると思う。

◆ 事務局

「ふるさと教育を基盤としたキャリア教育」といった表現ではどうか。

◎ 林部会長

その方がよろしいと思う。

◆ 事務局

そのように修正する。

○ 前原委員

障害者職業教育の1ポツ目「地域の事業所」の「事業所」を指しているのは、「会社」をイメージしているのか、「福祉事業所」をイメージしているのか。

◆ 事務局

「会社」をイメージして記載した。

○ 前原委員

「会社」のことを「事業所」とも言うので問題ないが、2ポツ目に「企業」とあるので、書き分けているのかなと思った。

福祉事業所でも作業訓練などをしており、福祉事業所にも移行する方がいるので、若干表現を悩むところがある。ひとまず「企業」ということで了解した。

◎ 林部会長

この件に関して、企画部会において、障害のある方が会社に入った後のケアについて発言したところ、他部会からは、雰囲気としてかなり賛同を得られた。

また、障害者を受け入れた先進的な会社については、セミナー等で呼んで、他の会社に紹介して欲しいという話をしたところ、強く賛成していただいた。

したがって、障害者の就職支援については、恐らく他の部会の提言にも入ってくるものと思う。

○ 前原委員

御対応いただき感謝申し上げます。

◎ 林部会長

P2の(2)のタイトル中の「専門教育」について、①に「基礎的能力としての情報活

用能力」とあるので、単に「教育」でも良いのではないか。

○ 教育次長

高校における産業人材の育成や、高等教育における専門的な教育といったものが入っていると理解している。

◎ 林部会長

①は基礎的能力とあるので、専門教育ではない。②は専門教育であるので、例えば、「高度な専門教育活動の展開を図ること」とすれば座りが良い気がするがどうか。

◆ 事務局

②のリード文の「高度な学びの機会」というところに「高度な専門教育活動」と入れる形ではどうか。

◎ 林部会長

タイトルに専門教育とあって、すぐその後に「基礎的能力」とあると違和感があるので、その方が良いと思う。表現方法を考えていただきたい。

◎ 林部会長

提言1はよろしいか。他に何かあったら、戻ってもらって構わない。

それでは、提言2に議論を移したい。提言2については、ICTについて非常に充実した記載をしていただき、感謝する。御意見を願います。

○ 野崎委員

(4)について、資料を読ませていただいて、非常に良く作っていただいたと思っている。①の3ポツ目のICTを活用した資料配付やオンライン会議などについては、今、学校単位でも進めている部分であるし、負担の無い活動の在り方をPTA内部でも話し合いをしているところであり、これについて記載いただき、大変ありがたいと思っている。そこで、「PTA活動を支援すべきである」とあるが、「支援」とはどのような意味か説明を願います。

◎ 林部会長

この文章の前文のところで、その内容が支援に当たると思うが。

◆ 事務局

主語を明確に書いていないので、誰が支援を行うのか分かりづらいので、表現を改めた

いと思うがどうか。

◎ 林部会長

学校と教育委員会が主語であることは分かる。入れてもくどくなると思う。支援の中身は、ICTの整備全般からPTA活動のやり方まで、様々入ると思う。

○ 野崎委員

教育委員会とも連携して行っているのだから、私どもの団体でも協力体制を取っている。例えば、「関係機関と連携して」等と入れるとくどくなるか。

◎ 林部会長

これは、秋田県に対する提言なので、PTAと二人三脚で支援していくということが可能になると思う。

○ 野崎委員

了解した。

◎ 林部会長

それでは、このままの表現とさせていただく。

○ 前原委員

(2)④の具体的な方策に活用例を挙げていただいている。基本的に、この内容で異論は無いが、普通学級に、学習障害などにより、文字が読みにくい、あるいは読めないという児童生徒がいて、その子だけタブレット端末を使用して、他の児童生徒から、あの子だけずるいと思われるようなケースがある。合理的配慮というメッセージを打ち出すためにも、例えば、「学習障害のある児童生徒」に対する活用例を一つ追加できれば良いと思う。案文を考えるが、載せる余地はあるか。

■ 教育次長

是非よろしく願います。

○ 前原委員

了解した。検討して御相談したい。

◎ 林部会長

締め切りが厳しいので、1日～2日程度で御検討いただければ大変ありがたい。

○ 佐藤委員

(4) ①について、家庭教育支援チームの現状がどうであるか分からないまま発言しているが、「支援する」と表現して良いほど、全県的に体制が整っているのか。まだ無い市町村が多いのであれば、「推進する」とった表現に止めた方が良いと思うがどうか。

■ 教育次長

現状、全ての市町村には無い。「進めるべきである」といった表現の方がよろしいかと思う。確かに、体制がしっかり整っていないのに、「支援する」といった表現は合わないと思う。調整させていただく。

○ 蛭田委員

(3) の具体的な方策の①であるが、1ポツ目について、「就学前施設と小学校の教職員が子どもの成長を共有するなどの連携を図るとともに」とあるが、その前に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とあるので、「子どもの成長を共有するなどの」の部分は削除した方が読みやすいと思う。

また、その後も「就学前教育・」を削除して、「小学校ではスタートカリキュラムも活用しながら、保育との接続の一層の強化を図るべき」とした方が分かりやすいと思うがいかがか。「就学前教育・保育」という言葉は、何か意味があって使っているのか。

◆ 事務局

「就学前教育・」を削除して「保育」のみとした場合、「幼稚園」は読めるか。

○ 蛭田委員

法令上、「保育」が「保育所における教育」のみを指す言葉ではなくなっている。「就学前教育・保育」という表現については、検討いただきたい。

■ 幼保推進課長

(3) 全体で「就学前教育・保育」という言葉を使用しているので、その部分だけカットすると違和感がある。「就学前教育・保育」というワンセットの言葉として統一して使用している。

○ 蛭田委員

ワンセットの言葉でこれまでも使用してきているということであれば、承知した。

◎ 林部会長

「就学前教育・保育」には、幼稚園から保育所まで全て入るということで、表現はそのままとしたい。

「子どもの成長を共有するなどの」の部分は削っても内容的には変わらないと思うので、紛れがないように削るということで事務局はよろしいか。

◆ 事務局

構わない。

○ 佐藤委員

(4) ②について、「地域の協力」という表現が気になる。コミュニティ・スクールについて、学校は一生懸命頑張っているのに対して、地域は「協力」という印象を与えないか。

◎ 林部会長

「協力」は「連携」の方が良いのではないか。

■ 教育次長

問題ないと思う。双方向であることが分かるようにという趣旨であるか。

○ 佐藤委員

そうである。検討をお願いしたい。

◎ 林部会長

事務局で検討をお願いしたい。

提言2の検討はここで終了し、提言3に移りたい。御意見のある方はお願いする。

◎ 林部会長

(2) ②について、外部指導者を登用して、学校の負担を出来るだけ減らすという意見には、基本的に賛成であり、提言にも採用したいと思うが、地域に移行しても、運動部活動は学校活動の一部だという理解でよろしいか。私の経験上、完全に地域任せにしてしまうとどのような指導が行われているか分からなくなり、いじめ防止やハラスメント防止の観点から、学校行事として管理していく必要があると考える。これは当然の前提だと思うがどうか。

■ 教育次長

現状ではそのとおりである。

◎ 林部会長

他部会から「高齢者との触れ合い活動」という意見が出ており、入試制度で加点するといったところまでは検討がいないと思うが、「自他を尊重する心を育む教育の推進」のどこかに1行くらい入れることが出来ないか。「多様性を尊重する人権教育の充実」に「高齢者」を入れ込むか、あるいは入っているという説明をするのでも良い。何か良いアイデアは無いか。

◆ 事務局

確かに「人権教育」で取り上げるテーマに「高齢者」が入っているが、現状の書きぶりでは読みにくい部分があるので、P7の具体的な方策のリード文に「高齢者」という文言を追加するのはどうか。

◎ 林部会長

「高齢者」だけ加えるとバランスが悪いので、LGBTや外国人児童生徒など、相当単語を加える必要がある。

■ 教育次長

「多様性」という表現で工夫してみたいと思う。

◆ 事務局

提言3の「背景」の1ポツ目に追加するのはどうか。

◎ 林部会長

背景の「多様性」で説明してしまえば、具体的な方策でも読めるので、その方が、収まりが良い。時間が掛かると思うが、検討していただきたい。

◎ 林部会長

それでは、提言4について御意見を願います。

個人的には、よくまとめていただいて、付け加えるべき意見は無い。提言4については、この内容でいきたい。

◎ 林部会長

それでは、全体を通して何かあるか。

無いようなので、事務局においては、本日指摘のあった事項について、文面を検討いただき、今後、メール等でやりとりしながら、内容を固めていきたいと思う。

9月17日が総合政策課への提言の提出期限になるので、あまり時間が無い。皆様にお諮りするが、提言書の最終校正あるいは提出後の手直し作業については、部会長に一任いただけないか。

○ 委員一同
(了承)

◎ 林部会長

ありがとう。もちろん大きな修正があった場合は、皆様にお諮りしたいと思うので、よろしく願います。細かな修正については、一任させていただきたい。

◎ 林部会長

最後に、議事「(3) その他について」事務局から何かあるか。

◆ 事務局

特に無い。

◎ 林部会長

それでは、審議事項は全て終了した。

審議の最後に当たり、御挨拶申し上げます。

まずもって、委員の皆様には、非常にアイディアに富んだ御意見を頂き、良い提言がまとまったことに感謝申し上げます。教育委員会の皆様には、二人三脚で非常に建設的な意見を延べていただき、感謝申し上げます。また、事務局においては、非常に難しいまとめだったと思うが、よくまとめていただき、充実した提言案になった。重ねて感謝申し上げます。

ここまで非常に短期間で忙しい検討日程であり、しかも新型コロナウイルス感染症がなかなか収まらないという今までに無い状況の中で、それに対応した提言を出すという非常に難しい作業を行ってきた。私は私たちが作ったので、教育委員会においては、これからの政策を通じてこれを実現させていき、秋田県の未来を拓く子どもたちを育てていただきたいと思います。

4 閉 会

(以上)